

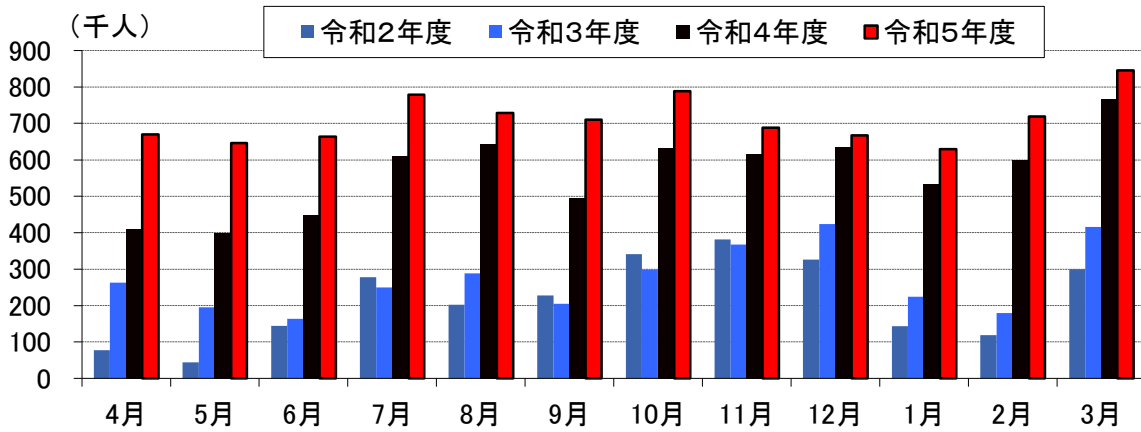
令和5年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和6年4月発表

令和5年度 853万2,600人
対前年度(R4)比 +175万8,000人、+25.9%
 ～年度では過去5番目、増加数は過去2番目～
※過去最高年度(H30)比 Δ147万1,700人、Δ14.7%

入域観光客数（国内+外国）

■月別入域観光客数の推移（令和2年度～令和5年度）



■令和5年度入域観光客の状況（令和4年度・平成30年度との比較）

	(千人)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年	669.8	645.2	663.4	778.8	728.6	710.1	788.3	688.2	666.7	629.2	719.2	845.1	8,532.6
令和4年	409.0	396.8	448.5	607.8	640.8	494.7	630.7	615.0	635.0	532.2	597.9	766.2	6,774.6
増減数	260.8	248.4	214.9	171.0	87.8	215.4	157.6	73.2	31.7	97.0	121.3	78.9	1,758.0
増減率	63.8%	62.6%	47.9%	28.1%	13.7%	43.5%	25.0%	11.9%	5.0%	18.2%	20.3%	10.3%	25.9%
平成30年度	833.2	830.9	809.7	885.8	1041.5	801.5	849.3	795.2	747.5	753.5	772.2	884.0	10,004.3
増減数	-163.4	-185.7	-146.3	-107.0	-312.9	-91.4	-61.0	-107.0	-80.8	-124.3	-53.0	-38.9	-1,471.7
増減率	-19.6%	-22.3%	-18.1%	-12.1%	-30.0%	-11.4%	-7.2%	-13.5%	-10.8%	-16.5%	-6.9%	-4.4%	-14.7%

※令和6年2月及び3月は速報値

■令和5年度の概況（総括）

令和5年度の入域観光客数は853万2,600人となり、対前年比で175万8,000人増（25.9%増）と、増加数では令和4年度に次いで過去2番目となった。また、これまで最多を記録した平成30年度に対して85.3%の水準まで回復し、過去5番目となった。

令和5年度は、全国旅行支援等の需要喚起策や修学旅行等の回復を受けて、国内観光客が回復したほか、外国人観光客についても、国際航空路線やクルーズ船の再開に応じて段階的に回復してきた。

令和6年度については、当面の間、回復基調が維持されると見込まれるものの、今後とも円安や物価高等による影響を注視していく必要がある。

国内観光客についての動向

■令和5年度国内観光客の状況（令和4年度・平成30年度との比較）

（千人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年	603.1	575.3	585.7	663.6	632.2	603.5	672.9	597.1	571.5	508.8	574.4	681.0	7,269.1
令和4年	409.0	396.8	448.5	607.8	640.7	494.7	628.0	602.9	602.2	487.4	554.5	702.0	6,574.5
増減数	194.1	178.5	137.2	55.8	-8.5	108.8	44.9	-5.8	-30.7	21.4	19.9	-21.0	694.6
増減率	47.5%	45.0%	30.6%	9.2%	-1.3%	22.0%	7.1%	-1.0%	-5.1%	4.4%	3.6%	-3.0%	10.6%
平成30年度	556.4	514.6	534.6	595.0	741.5	571.0	602.8	604.1	570.3	523.7	532.1	657.4	7,003.5
増減数	46.7	60.7	51.1	68.6	-109.3	32.5	70.1	-7.0	1.2	-14.9	42.3	23.6	265.6
増減率	8.4%	11.8%	9.6%	11.5%	-14.7%	5.7%	11.6%	-1.2%	0.2%	-2.8%	7.9%	3.6%	3.8%

■国内観光客の概況

令和5年度は、5月8日に新型コロナが「5類感染症」に移行し、県内イベントが通常開催されたほか、全国旅行支援等の需要喚起策により、旺盛となった国内の旅行需要を取り込むことができたこと、また、修学旅行等の需要回復、FIBAバスケットボールワールドカップ沖縄開催等もあり、これまで最多であった平成30年度を上回り、過去最多となった。

令和6年度は、コロナ禍を経て高揚した旅行マインドが一旦落ち着くことが見込まれるものの、デフバレーボール世界選手権大会や沖縄空手少年少女世界大会等の大型イベントの開催、複数のフライ&クルーズが予定されていること等から、堅調に推移すると見込まれる。

外国人観光客についての動向

■令和5年度外国人観光客の状況（令和4年度・平成30年度との比較）

（千人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年	66.7	69.9	77.7	115.2	96.4	106.6	115.4	91.1	95.2	120.4	144.8	164.1	1,263.5
令和4年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	2.7	12.1	32.8	44.8	43.4	64.2	200.1
増減数	66.7	69.9	77.7	115.2	96.3	106.6	112.7	79.0	62.4	75.6	101.4	99.9	1,063.4
増減率	—	—	—	—	—	—	—	652.9%	—	—	233.6%	—	531.4%
平成30年度	276.8	316.3	275.1	290.8	300.0	230.5	246.5	191.1	177.2	229.8	240.1	226.6	3,000.8
増減数	-210.1	-246.4	-197.4	-175.6	-203.6	-123.9	-131.1	-100.0	-82.0	-109.4	-95.3	-62.5	-1,737.3
増減率	-75.9%	-77.9%	-71.8%	-60.4%	-67.9%	-53.8%	-53.2%	-52.3%	-46.3%	-47.6%	-39.7%	-27.6%	-57.9%

※令和6年2月及び3月は速報値

■外国人観光客の概況

令和5年度は、令和4年10月に水際対策が大幅に緩和されて以降、航空路線やクルーズ船の再開が続いたことで、増加数が過去最多で、過去6番目となった。

空路客については、一部航空路線の運休があるものの平成30年度の52.8%に、海路客は平成30年度の26.0%まで回復した。

令和6年度は、航空路線において那覇-釜山便の再開(3/31～)、那覇-バンコク便の新規就航(4/2～)、下地-仁川便の新規就航(5/29～)があること、クルーズ船寄港スケジュールが令和5年度を上回ること、円安による効果も期待できること等から、さらなる回復が見込まれる。